

### 地域情報化アドバイザー制度活用報告書（2日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

#### 記

#### 1. 申請団体情報

##### 1-1. 申請団体

団体名	近江八幡市役所		代表者名	小西 理
担当者部署	総務部		連絡先電話番号	0748-36-5554
担当者役職	主任主事	担当者氏名	小関 研洋	連絡先E-mail
住所	523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236番地			

#### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	安江 輝
評価	大変よい
上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に）	先進的なICT導入事例を分かりやすくご紹介いただくとともに、特に今回の研修で重要としたICT活用したまちづくりに係る具体的な取組やその進め方について、推進する立場の管理職を中心にお聞かせいただいたことによって、市の課題解決に対してICTを活用することを意識する契機の一つとなりました。また、多くの職員が気にする財源にも触れていただき、society5.0時代のICTを活用した政策について、具体的なイメージを行うきっかけとなりました。
アドバイザーへの要望事項	アンケート中に先生へご質問をさせていただきたい旨の内容がありましたので、別途ご回答をいただけますと幸いです。大変、良い研修となりました。ありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。

#### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年2月2日	8時30分	15時30分	120	300
3-2. 派遣場所	会場名	近江八幡市文化会館		最寄駅	-
	所在地	滋賀県近江八幡市出町366番地		最寄駅からの交通手段	
	派遣形態	講演（オンライン）			

#### 4. 報告書についてのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="checkbox"/> 掲載可
------	---

#### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	市役所職員	61人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい）	society5.0時代がどのようなものかという観点では情報を共有できたが具体的にどのように政策にするか、または事業に落とし込むかといった観点が不足していた。今回の研修では地域の情報化（スマートシティ）の考え方について、より実践的な取組や先進事例、どのように進めていけばよいかを職員が知る必要があった。	
支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）	地域の情報化について、先進事例や取組方法、財源等、職員が具体的に政策・事業化を行うためのプロセスがイメージできるよう、講演を通じて実施方法などを職員がイメージできるようになる。	
アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	地域の情報化（スマートシティ）の考え方について、より実践的な取組や先進事例、どのように進めていけばよいかを講演いただいた。また、society5.0時代におけるまちづくりとはどのような事が可能なか、実践的な例を交えながら説明いただくことができた。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	ICT等の技術を用いたまちづくりに関して、今まで少し遠い世界のでき事であり、イメージができていなかった職員が、大きく変わらない人口規模である他市の取組を通じて、ICT技術を用いた解決に向け、イメージを行う契機となった。また、現在の業務で直接導入できないと判断した職員でも、今後市全体の取組として必要と考えられるようになるなど、意識にも変革の兆しが見られた。	

具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	地域ごとの特色や実情等があるため、行われている先進的な事例をそのまま活用することはできない。今後、当市における解決すべき問題を課題として、どのように取り組むかを考える機会を持つ必要がある。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別添のとおり。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③现阶段では課題・問題が残っているため未定
事業の最終的な目指す姿	予算化の前段階として課題の発見について注力すべき段階。ただ、意識としてICT技術の活用が選択肢に入ってきているため、今後はその点も含めた予算確保のための取組を行っていくこととなる。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

